

## 令和5(2023)年「正覚寺報」9月号

## お知らせ

正覚寺『歓喜会』では、柱本 惇本願寺派布教使をお迎えしわかり易く内容豊かなご法話を戴きました。

ところで、九月三日の第一日曜は、住職が所要移動の為首が回らず都合がつきません。

このため、秋の彼岸会を中心に据え、仏教壮年会お聴聞の会、佛婦例会を同日の夜のご法座に合体してお勤めさせて戴きたいと存じます。なにとぞご容赦下さい。

秋の彼岸会9月16日(土)14&19時半

仏教壮年会お聴聞の会、仏教婦人会例会は、9月16日(土)19時半に合同でお勤めさせて戴きます。

## 阿弥陀如来とはどのような仏様か

## ご讃題

慈光はるかにかぶらしめ

ひかりのいたるところには

法喜をうとそのべたまふ

大安慰を帰命せよ

(『讃阿弥陀仏偈和讃』第十番、註釈版聖典 p558)

## はじめに

八月十九日、柱本 惇師を迎え「歓喜会」と「百回忌」をお勤めさせて戴きました。

ご法話の最後にご文章をあげるとき、なぜ頭を下げるか。「尊いからである」、そんならお経を上げるときずっと頭をさげないではないか。「ご文章をあげるときは、そこに蓮如様が現われていて下さるからである。

御法をお伝えして下さるお方にお会いする

ことはお聴聞の目的、効果であるからである。

歓喜会は、お盆のご法要であるので、阿弥陀様のお心を仰ぎたいと思います。

阿弥陀様とはどんな仏様か、お慈悲の仏様である。「慈悲」とは何か。抜苦与楽(ばくよく)である。「抜苦与楽」とは何か。苦を抜き楽を与える親心を表す。

ご讃題の「大安慰(だいあんい)」とは何か、阿弥陀様は、衆生に大いなる安らぎと慰めをお与え下さる仏様だったからである。

ご本尊は、お立ち姿である。阿弥陀様がお立ち姿で働いて下さるお姿を表す。衆生が心配で心配でならない姿を表す。

鎌倉浄土宗高德院のご本尊、宇治の平等院鳳凰堂のご本尊は阿弥陀様だけれどもそのお姿はお座り戴いている。お心を表して下さるだけならお座り戴いていても差し支えない。

ところが、わが子が道路に飛び出して行ったとしたら言葉では間に合わない。親はわが子のところへ走って行って抱きとめにはおれない。そのときの姿がお立ち姿のお姿である。

因みに自坊のわが子は二歳である。二歳の子供にとって扇風機は不思議でならない。ともすれば扇風機に近づいて指を突き出そうとする。親はその姿を見て直ちに子供に近づいて抱きかかえずにはおれない。

阿弥陀様の今一つのお姿は、無背相(むはいそう)である。阿弥陀様には背中のお姿がない。阿弥陀様は私たちに背をむけることのない仏様だったからである。合掌。